

～我が故郷は上桜田地区の
寺社シリーズ No6～
「熊野神社」

回
覧
⑦

今回は「熊野神社」についてです。

場所は、東北芸工大敷地の南西側、図-1の「ここ」の所です。「熊野山・羽黒山」の二社をお祀りしているお社で、本町内会14組の柴田邦裕さんが管理しています。



図-1

1. 境内の概況

図-2のとおりです。右手にしだれ桜が、左手に濃い赤紫色の梅が同時に咲き誇ります。同内には、図-3のとおり六角地蔵塔・六角石幢が安置されており、「伊藤孝蔵先生著コラム集(岩波町内会)」に依ると、「寛文四(1664)年九月十二日 供養者十名」と刻字されているとあり、私にもそのように解釈は可であります。また、芸工大前区画整理事業の前は、図-4・図-5写真(18組の柴田宗看さんから提供)のとおり状況であり、正面は西側を向いていたという。さらに、針葉樹と広葉樹の入り混じった鬱蒼とした森を形成し、カタクリが群生するなど多くの山野草が自生していました。もう一つ、滝山郷土史研究会長新



図-2



図-3



図-4

関昭男さんから教えられたのですが、初めて知ったヒメシャガ(?)—アヤメ科アヤメ属の多年草—について触れてみます。



図-5

2016(平成28)年6月15日
上桜田町内会長

現在、環境省レッドデータブック(リスト)には、「準絶滅危惧(NT)」として登録されている貴重な花ですが、これが、この熊野神社の境内に群生し

咲いていた所があったそうです。



図-6

図-6は、本年5月15日(日)前出新聞さんと寒河江市平塩地区の熊野神社に同行した時に境内に咲いていたヒメシャガ(?)です。径は4cmほどで、全体的に白色の中に紫色の脈と黄橙色の斑紋、とさか状の突起があり、三方にバランス良く配置された花弁など、どこか・何か秘密めいたものを感じさせる花です。

2. 内部の状況

図-7のとおりであり、祭壇中央に本尊を祀っている逗子、その右側に木像、左側には石仏と小さな逗子が見えます。旗や横断膜・提灯を見ると「熊野山」と「羽黒山(右上の提灯に記述)」の文字が見えます。これらから両修験道との係わりが垣間見えます。



図-7

3. 縁起

縁起等については、同社階段左手にある案内表示板(歴史の散歩道)

のとおりであるが、何度かの火災にあって明治四年(1871年)に再建され、熊野大権現を祀っている、とあります。また、「瀧山の歴史(滝山交流センターに復刻版有り、有料)」—平成十六(二〇〇四)年十月一日 同編集委員会編纂—も参考にして見てください。

4. 歴史的遺産

(1) 内部には、前記「瀧山の歴史」にも記載されているが、図-8のとおり半ば朽ちた木彫の古い仏像4体が祀られています。柴田邦裕さんご家族と確認した処では、右側から①馬頭観音、②蔵王大権現、③地藏尊、④聖観音であろう、という事です。東北芸工大の関係者などが時々訪ねて来て、この木造の仏像には特に関心を寄せる、という事ですから、とても貴重な歴史的価値の高いものではないかと、思っています。



図-8

(2) 図-7中央部の逗子(A)の中には、本尊の御神像と図-8と同様の朽ちた仏像2体が奉られています。

(3) 江戸時代は堀田村瀧山村内に四国八十八所の写し霊場を比定(設定)していたが、その中の一つがこの神社の同図B逗子の中に祀られています。これについては、機会があれば別に取り上げたいと思います。

< 参考 >

ここにも神仏習合が今も生きて、正々堂々と奉られている事に感動します。熊野神社は全国津々浦々、もちろん山形市内にも沢山あります。なぜ、この上桜田に熊野信仰か?という素朴な疑問があります。因果・

始終の関係性表現は私にとって難しいのですが、何かのヒントになればと思い、「神仏混交の歴史探訪/川口謙二氏著・東京美術」等を参考に、非常に雑駁であるが、私の視点から対比性を意識しながら概括的に纏めてみました。

—大峰奥駈道(大峰山脈/図-9を参照) 1帯には、今の奈良県吉野郡吉野の金峯山寺を本拠とした(前)蔵王権現信仰と、和歌山県東牟婁郡本宮の熊野本宮を本拠とした(後)熊野権現信仰が融合した一大修験道場が拓けて来た。前者は、本尊(護身仏)を修験道の始祖、役小角が感得した蔵王権現とし、後者は本尊(御神体)を熊野権現とし、広まって来た。この道場に密教両部曼荼羅の信仰世界を重ね、大峰奥駈道のほぼ中間の孔雀岳と釈迦ヶ岳の間に「曼荼羅金胎两部分け」を設定し、それより北側、つまり吉野側を金剛界曼荼羅、それより南側、つまり熊野側を胎藏界曼荼羅として、修験者はこの山中に分け入り、回峰行脚・滝行などの心身苦行の錬磨により修行した。江戸時代になると吉野修験(蔵王権現)は当山派と言われ真言密教との繋がりを深め、熊野修験(熊野権現)は本山派と言われ天台密教との繋がりを深めていった。両修験者は、それぞれのエリアに留まらず吉野と熊野間の峰々・山中を往来跋扈・交渉した。このような修験道は、修験者・山伏や念仏聖・比丘尼などの勧誘・布教により、全国各地の民衆に広く浸透していった。

・・・それらを踏まえ、この地の近隣の状況を概観するに、いわゆる蔵王山一帯に着目してみる。・・・宮城県側は、吉野修験の勢力下、蔵王権現が勧請され、一山を蔵王山というようになった。一方、山形県側は熊野修験の勢力下、主峰(最高峰)の山は熊野岳と名称付けられた。

そのような歴史変遷を経て、前記、大峰奥駈道一帯で興隆した修験道は、長い歴史を経て、全国各地に影響を残して来た事実は今に引き継がれている。

ところで、山形県埋蔵文化財調査報告書第19集の18ページには「奥羽山脈の山麓ぞいには、山寺立石寺や天童市若松寺など天台宗系の古寺が多いが、西側の出羽丘陵一帯には、山形市滝ノ山観音寺や^{ゆかじ}瑜伽寺、平塩寺をはじめ真言宗系の古代寺院が多く、平安時代から中世にかけて、この地域は主として真言宗が弘通したと言われている。」と書かれている。

～いずれにしても、すばっと布教エリアを線引きし分断出来るものではなく、重層化・相関しながら、飛び地を形成しながら拡散して来た、また、同一人が両方の信仰心を抱く事は不思議でもなく、分宗・分派や系列化も相まって・・・。——

まさに神仏・神神・仏の混淆の土壌は大和民族の真骨頂、といった処ではないか。このような影響がこの上桜田地区まで及んで来た、と思っています。



図-9

◎私事で甚だ恐縮ですが、大峰奥駈道を、2010平成 22)年9月24日(金)奈良県吉野川川スタート(9月29日(水)熊野本宮大社、ゴールまでを5連泊無人、山小屋)6日間で、実歩行距離120kmを連続連日歩行した時の尾根沿いルート図です。同ルート上の道そのものが世界遺産です。

【 編集後記 】

- ・正月元旦は、柴田邦裕さんのご厚意で、朝から戸を開けてお参りする事ができますので、どうぞご覧ください。
- ・ご協力を賜った柴田邦裕さんご家族に、そして、貴重な古い写真を提供して下さった柴田宗看さん(としみつ)に感謝申し上げます。
- ・準絶滅危惧種のヒメジャガの事です、花期は当地方ですと、5月上旬から中旬、成沢城跡公園に群生が見られます。瀧山地区にもあるとは思いますが・・・。

以上

(上桜田町内会 総務担当 大沼 香)